



# 2022年3月期 第2四半期決算説明

2021年11月9日

 **ダイダン**株式会社

# 目次

連結業績サマリー

第2四半期決算ハイライト

通期業績予想

中期経営計画の進捗状況

サステナビリティへの取り組みについて

〈参考〉 DATA FILE

2022年3月期  
第2四半期決算

# 連結業績サマリー

## 連結経営指標等（経営成績）の概要

（単位：百万円）

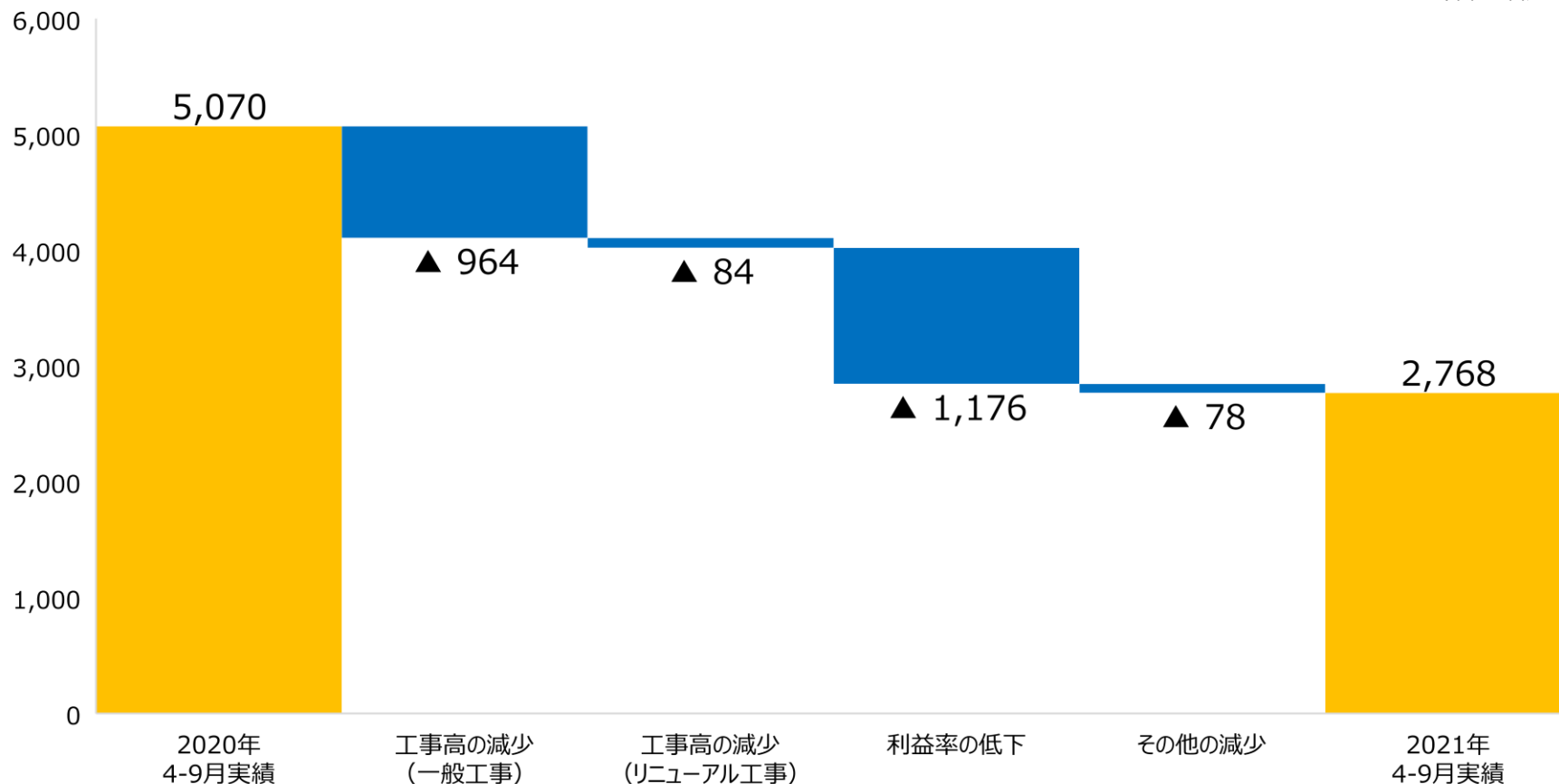
	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減	増減率	主な増減要因・特記事項
期首繰越工事高	124,228	143,043	18,814	15.1%	
受注工事高	84,656	107,423	22,766	26.9%	大型工事を中心にコロナ禍以前の水準に回復
完成工事高	72,734	65,780	▲6,953	▲9.6%	前期末からの繰越工事高は豊富だが、大型工事の進捗が本格化していないことにより当期に出来高あがらず減少
完成工事総利益	11,179	8,857	▲2,322	▲20.8%	完成工事高の減少、および利益率も低下
完成工事総利益率(%)	15.4%	13.5%	▲1.9pt	—	
営業利益	5,070	2,768	▲2,301	▲45.4%	完成工事総利益の減少
営業利益率(%)	7.0%	4.2%	▲2.8pt	—	
経常利益	5,366	3,044	▲2,322	▲43.3%	営業利益の減少
経常利益率(%)	7.4%	4.6%	▲2.8pt	—	
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,654	2,077	▲1,577	▲43.2%	
四半期純利益率(%)	5.0%	3.2%	▲1.9pt	—	

## 事業環境

- 受注工事高は、前期は主に新型コロナウイルス感染症の影響により、リニューアル工事全体が減少しましたが、当期は大型工事を中心にコロナ禍以前の受注水準に回復し増加となりました。
- 完成工事高は、前期末からの繰越工事高が豊富にあるものの、大型工事の進捗が本格化せず、これにより完成工事総利益も減少となりました。
- 完成工事総利益の減少を受け、損益面は減益となりました。

## 連結営業利益減少の内訳

(単位：百万円)



- 一般工事は、大型工事の進捗が本格化しないことによる出来高の減少に伴い、利益も減少しました。
- 完成工事利益率は、採算性の高い産業施設工事の出来高が減少したこと、また受注競争の激化や資機材価格の高騰などにより低下し、減益となりました。

## 連結部門別工事高の推移

(単位：百万円)

		2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減	増減率	主な増減要因等・特記事項
受注 工事高	電気工事	15,824	12,340	▲3,483	▲22.0%	前期の再開発案件の反動減
	空調工事	47,510	70,667	23,157	48.7%	オフィス・病院・産業施設案件の受注増
	水道衛生工事	21,322	24,415	3,092	14.5%	
	合計	84,656	107,423	22,766	26.9%	増加要因は4ページのとおり
完成 工事高	電気工事	10,400	10,418	18	0.2%	
	空調工事	43,648	38,630	▲5,018	▲11.5%	
	水道衛生工事	18,685	16,732	▲1,953	▲10.5%	
	合計	72,734	65,780	▲6,953	▲9.6%	減少要因は4ページのとおり
繰越 工事高	電気工事	24,937	23,807	▲1,130	▲4.5%	
	空調工事	81,446	117,975	36,528	44.8%	
	水道衛生工事	29,766	42,903	13,137	44.1%	
	合計	136,151	184,685	48,534	35.6%	前期末の繰越工事増加、当期の受注工事増加、ならびに完成工事高の減少

- 4ページに記載のとおり、受注工事高は増加しましたが完成工事高は減少しました。
- 受注工事高は、大型工事案件を中心に受注が回復し、特に空調工事はオフィス、病院、産業施設案件の受注が増加しました。
- 前期末の繰越工事の増加に加え、当期の受注工事の増加、ならびに完成工事高の減少により繰越工事高は大きく増加しました。

## 連結経営指標等（財政状態）の概要

（単位：百万円）

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減	増減率	主な増減要因・特記事項
純資産	74,837	75,801	963	1.3%	利益剰余金が1,109百万円増加
総資産	132,210	126,308	▲5,901	▲4.5%	当期の工事の出来高が少なく、債権の計上が前期より減少したことによる
1株当たり純資産（BPS）	3,491.84円	3,535.17円	43.33円	1.2%	上記、「純資産」の増加の通り
株価純資産倍率（PBR）	0.85倍	0.75倍	▲0.10倍	—	（参考）2021年3月 株価終値：2,963円 2021年9月 株価終値：2,653円
自己資本比率	56.4%	59.9%	3.4 p	—	

## 連結経営指標等（キャッシュ・フロー）の概要

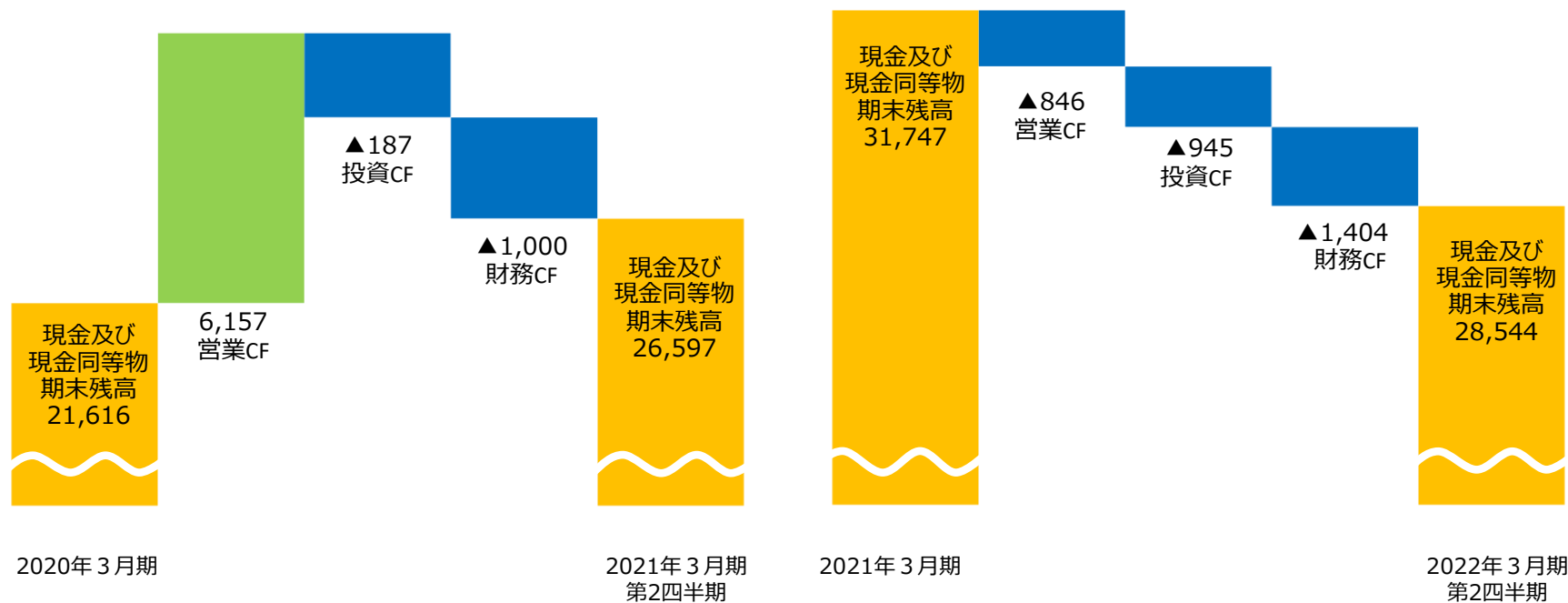
（単位：百万円）

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減	増減率	主な増減要因・特記事項
営業活動によるCF	6,157	▲846	▲7,004	—	四半期純利益が前期に比べて減少、及び前期計上の債務の支払が売上債権の回収を上回る
投資活動によるCF	▲187	▲945	▲758	—	北海道支店・北陸支店の建替、ベンチャー企業への出資
財務活動によるCF	▲1,000	▲1,404	▲403	—	配当金の支払
現金及び現金同等物の期首残高	21,616	31,747	10,131	46.9%	
現金及び現金同等物の増減額	4,980	▲3,203	▲8,183	—	
現金及び現金同等物の 四半期末残高	26,597	28,544	1,947	7.3%	



## キャッシュ・フロー前期比較（現金及び現金同等物期末残高の推移）

（単位：百万円）





2022年3月期  
第2四半期決算

# 第2四半期決算 ハイライト

(単位：百万円)

	2021年3月期			2022年3月期	前年同期比		主な増減要因・特記事項
	上半期	下半期	通期	上半期	増減	増減率	
リニューアル工事	39,731	38,022	77,754	49,326	9,594	24.1%	主に工場の大・中規模案件の受注による
リニューアル比率(%)	46.9%	41.4%	44.0%	45.9%	-	-	
大規模・中規模の改修工事	23,805	21,830	45,635	33,014	9,208	38.7%	
小規模の改修工事	15,926	16,192	32,118	16,312	385	2.4%	
その他	44,924	53,846	98,711	58,096	13,172	29.3%	
受注工事高合計	84,656	91,869	176,526	107,423	22,766	26.9%	
うち、直接受注	30,097	38,639	68,736	50,524	20,472	67.9%	大型の病院・工場・データセンター案件受注
直接比率(%)	35.6%	42.1%	38.9%	47.0%	-	-	
うち、官庁工事	10,590	15,718	26,309	21,127	10,537	99.5%	上記の病院案件の受注による
官庁比率(%)	12.5%	17.1%	14.9%	19.7%	-	-	

- リニューアル工事は、前期は主に新型コロナウイルス感染症の影響により減少しましたが、当期は工場の大・中規模案件の受注によりコロナ禍以前の受注水準に回復しました。
- 直接受注においても、大型の病院・工場・データセンター案件を受注し、また、大型の病院案件が官庁工事であったため、直接受注、官庁工事とも前期と比べ大幅に増加しました。

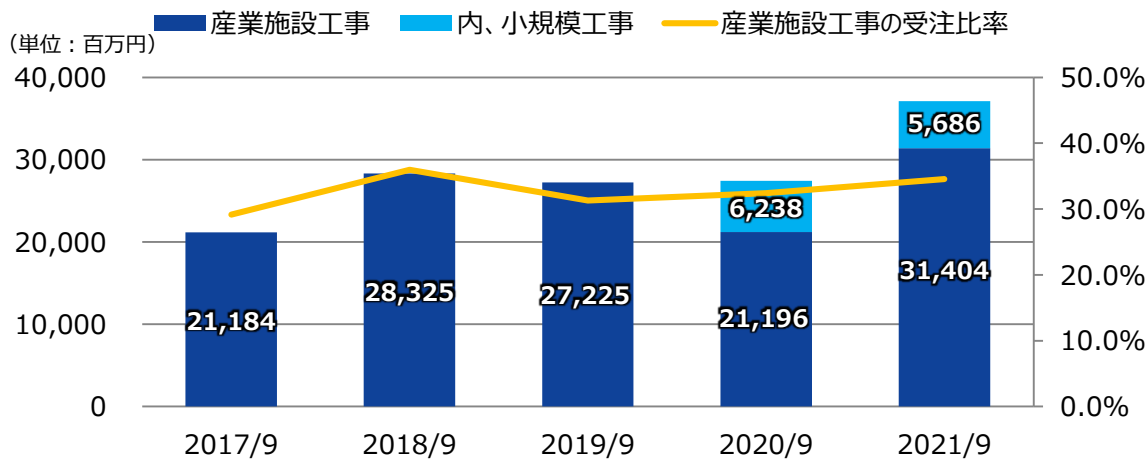
## 産業施設工事の状況

(単位：百万円)

	2021年3月期			2022年3月期	前年同期比		主な増減要因・特記事項
	上半期	下半期	通期	上半期	増減	増減率	
産業施設工事合計	27,434	38,215	65,649	37,090	9,655	35.2%	大型の工場、データセンターの受注増
(受注比率%)	32.4%	41.6%	37.2%	34.5%	-	-	
受注工事高合計	84,656	91,869	176,526	107,423	22,766	26.9%	

※工場、研究所、データセンター、物流施設を「産業施設」として区分しております。

### 産業施設工事の第2四半期受注工事高の推移



- 設備投資の回復により、特に大型の工場、データセンター案件の受注などにより前期比で増加となりました。

※当期より工事区分の見直しを行った結果、一部の小規模工事を産業施設工事に含めております。  
なお前第2四半期(2020/9)についても区分の見直しを遡って適用した後の数値を表示しております。

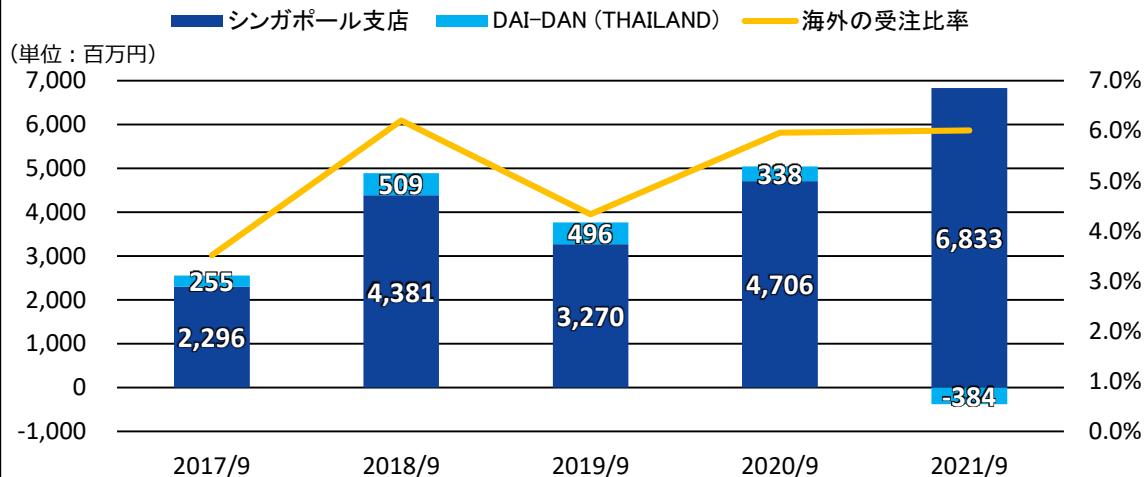
## 海外事業の状況

- 海外事業は、シンガポール支店とDAI-DAN（THAILAND）を中心に活動しています。
- 新たな海外拠点として、昨年度にDAI-DAN（VIETNAM）Co.,LTD.（ベトナム：ハノイ）、今年度にDAI-DAN INTERNATIONAL ASIA PTE.LTD.（シンガポール）を設立しました。

（単位：百万円）

	2021年3月期			2022年3月期	前年同期比		主な増減要因・特記事項
	上半期	下半期	通期	上半期	増減	増減率	
海外受注工事合計 (受注比率%)	5,043 6.0%	4,695 5.1%	9,738 5.5%	6,449 6.0%	1,405 -	27.9% -	産業施設関連の受注が増加
受注工事高合計	84,656	91,869	176,526	107,423	22,766	26.9%	

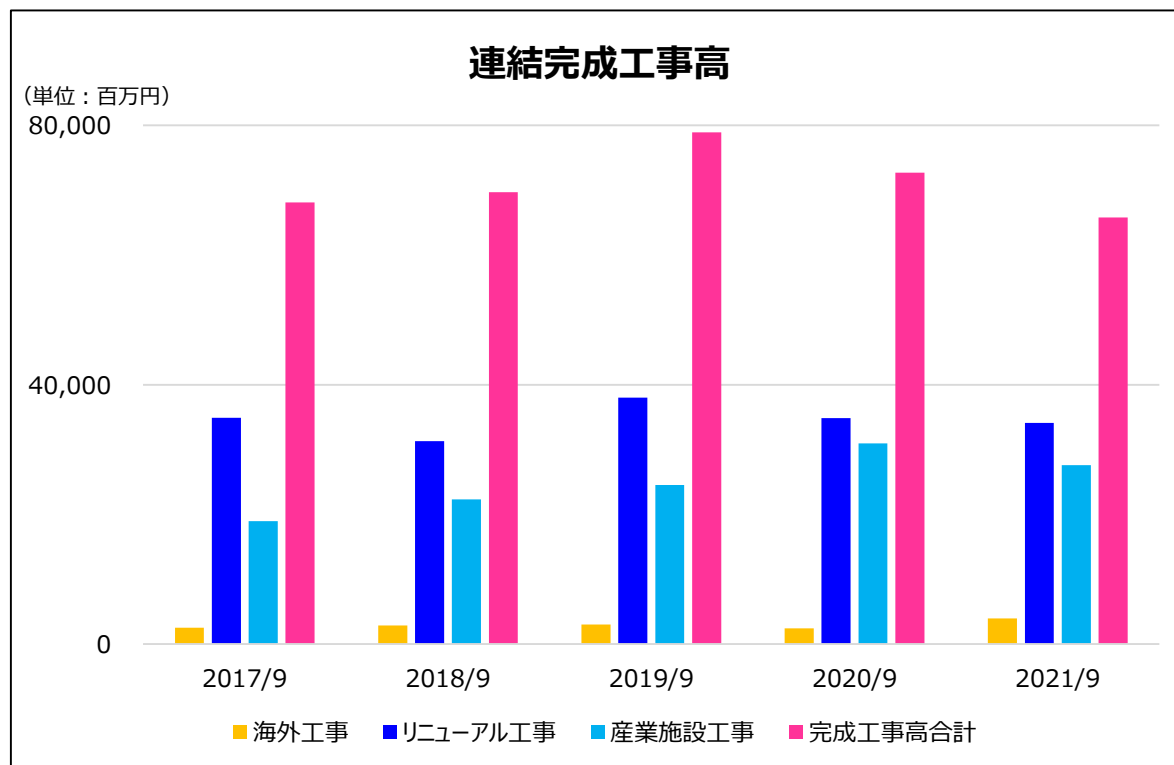
## 海外の第2四半期受注工事高の推移



- シンガポールは、前期に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動規制が続いており、建設現場の運営に影響を与えています。しかしながら受注活動にはその影響が少なく、昨年と比べ受注工事高が増加しました。
- タイは、昨年受注した大型工事が、客先都合による中止見込みのための受注取消があったため、受注工事高がマイナスとなりました。

(単位：百万円)

	2021年3月期第2四半期		2022年3月期第2四半期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
完成工事高合計	72,734	100.0%	65,780	100.0%	▲6,953	▲9.6%
(産業施設工事)	30,961	42.6%	27,565	41.9%	▲3,396	▲11.0%
(リニューアル工事)	34,856	47.9%	34,125	51.9%	▲731	▲2.1%
(海外工事)	2,431	3.3%	3,931	6.0%	1,499	61.7%



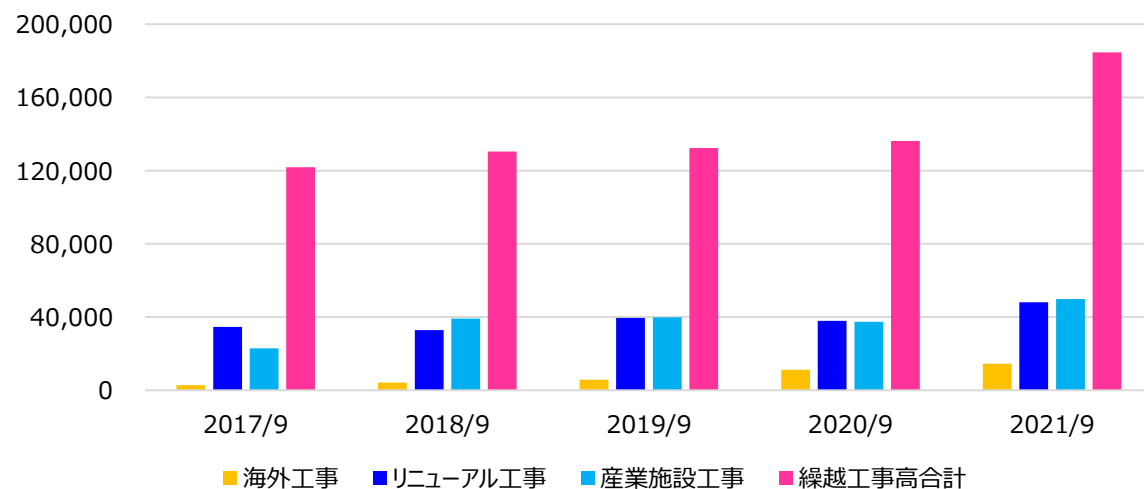
- 当期の完成工事高は、前期と比べて産業施設工事は大型工事が多く進捗が本格化せず減少、リニューアル工事は微減、海外工事はシンガポールの昨年度の新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動規制による伸び悩みの反動により、増加しました。
- 当期は、過去5年において完成工事高が最も少なくなっておりますが、14ページ記載のとおり豊富な繰越工事高があり、下期完成工事高に寄与します。

(単位：百万円)

	2021年3月期第2四半期		2022年3月期第2四半期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
期首繰越工事高	124,228	—	143,043	—	18,814	15.1%
受注工事高	84,656	—	107,423	—	22,766	26.9%
完成工事高	72,734	—	65,780	—	▲6,953	▲9.6%
<b>繰越工事高</b>	<b>136,151</b>	<b>100.0%</b>	<b>184,685</b>	<b>100.0%</b>	<b>48,534</b>	<b>35.6%</b>
(産業施設工事)	37,406	27.5%	49,781	27.0%	12,374	33.1%
(リニューアル工事)	37,840	27.8%	48,055	26.0%	10,214	27.0%
(海外工事)	11,163	8.2%	14,384	7.8%	3,221	28.9%
うち当期下期完成予定	62,793	—	74,743	—	11,950	19.0%

## 連結繰越工事高

(単位：百万円)



- 前期と比べて期首繰越工事高、受注工事高ともに増加し、完成工事高は大型工事の進捗が本格化せず減少、そのため繰越工事高が大きく増加しております。
- 当期は、過去5年間において最も多い繰越工事高があり豊富な工事量を確保しております。
- うち、当期下期完成予定も増加しており、下期完成工事高に寄与します。

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期	増減	増減率
受注工事高	4～6月	36,167	44,698	8,531	23.6%
	7～9月	48,489	62,725	14,236	29.4%
	4～9月	84,656	107,423	22,766	26.9%
完成工事高	4～6月	34,816	27,257	▲7,559	▲21.7%
	7～9月	37,918	38,523	605	1.6%
	4～9月	72,734	65,780	▲6,953	▲9.6%
営業利益	4～6月	2,281	528	▲1,752	▲76.8%
	7～9月	2,789	2,240	▲549	▲19.7%
	4～9月	5,070	2,768	▲2,301	▲45.4%

- 受注工事高は、4～6月、7～9月ともに前期と比べて増加しております。
- 完成工事高は、4～6月は前期と比べて減少しておりますが、7～9月では前期よりも1.6%増加し回復基調にあります。
- 営業利益は、完成工事高の増加を受け、4～6月、7～9月の前期比増減率を比較すると、▲76.8%から▲19.7%に減少率が縮小しております。



2022年3月期  
第2四半期決算

# 通期業績予想

## 連結通期業績予想

(単位：百万円)

	2021年3月期			2022年3月期			前期対比 通期	
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期 (予想)	通期 (予想)	増減	増減率
受注工事高	84,656	91,870	176,526	107,423	75,577	183,000	6,474	3.7%
完成工事高	72,734	84,978	157,712	65,780	102,220	168,000	10,288	6.5%
(うち上半期からの繰越)	—	(62,793)	—	—	(74,743)	—	(11,950)	(19.0%)
完成工事総利益	11,179	10,342	21,521	8,857	13,143	22,000	478	2.2%
完成工事総利益率(%)	15.4%	12.2%	13.6%	13.5%	12.9%	13.1%	▲0.5p	
営業利益	5,070	3,684	8,754	2,768	4,732	7,500	▲1,254	▲14.3%
営業利益率(%)	7.0%	4.3%	5.6%	4.2%	4.6%	4.5%	▲1.1p	
経常利益	5,366	3,896	9,262	3,044	4,656	7,700	▲1,562	▲16.9%
経常利益率(%)	7.4%	4.6%	5.9%	4.6%	4.6%	4.6%	▲1.3p	
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,654	2,664	6,318	2,077	3,123	5,200	▲1,118	▲17.7%
当期純利益率(%)	5.0%	3.1%	4.0%	3.2%	3.1%	3.1%	▲0.9p	

## 業績予想の前提

- 2021年5月12日に発表した決算短信から変更はございません。
- 完成工事高は増加を見込むものの、大型工事の採算性が高くないことによる工事利益率の低下、DX投資による一般管理費の増加などを受け営業利益は減少する見込みとなっております。
- 上半期は前期と比べ減収減益となりましたが、「うち上半期からの繰越」とおり、前期よりも下期に完成予定の繰越工事が多く、通期業績予想の通り推移していく見込みとなっております。

## 株主還元に対する方針

- 利益配当による株主への利益還元を経営上の最重要施策と考え、健全な財務体質の構築に努めております。
- 中期経営計画における数値目標のとおり配当性向30%以上を配当方針としております。

## 配当の状況

	年間配当金			配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
	第2四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
<b>2020年3月期</b>	40.00	50.00	90.00	1,975	30.9%	3.0%
<b>2021年3月期</b>	45.00	45.00	90.00	1,949	30.8%	2.7%
<b>2022年3月期 (期末は予想)</b>	45.00	45.00	90.00	—	37.0%	—

## 自己株式取得について

- 株主還元及び資本効率の向上を目的とし、適宜検討してまいります。

2022年3月期  
第2四半期決算

# 中期経営計画の 進捗状況

〈整えるステージ〉 FY2021-2023

- 長期ビジョン2030に向け、国内外の基盤を整備強化する《整えるステージ》です。
- 連結売上高の拡大に向けて、新規事業にもチャレンジし、グループ体制を整えます。
- 『空間価値創造企業』目指し、広くお客さまに価値を届けていきます。

事業戦略	《整えるステージ》の戦略 FY2021-2023	施策の実施状況
<b>基幹事業の拡大</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業施設工事の拡大</li> <li>・ ストックビジネスの強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子デバイス、データセンターなど大型化が進む産業施設への技術者の適正配置</li> <li>・ 子会社と連携した積極的な保守メンテナンスの受注による顧客囲い込み</li> </ul>
<b>海外事業の強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外展開の統括基盤整備</li> <li>・ 新規拠点の開拓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各プロジェクトの営業、技術提案、品質管理を国内の本部が支援</li> <li>・ 昨年新規進出したベトナムにおいてコロナ禍でのリモート営業を強化</li> </ul>
<b>技術力の強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現場力の強化</li> <li>・ ZEB &amp; IoT事業の拡大</li> </ul>	<p>「サステナビリティへの取り組み」にて詳細説明</p>
<b>新規事業の開拓</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再生医療の実用化への貢献</li> <li>・ 環境負荷低減ビジネスの推進</li> </ul>	

2022年3月期  
第2四半期決算

# サステナビリティへの 取り組みについて



社会とともに持続的な成長をすることの重要性を認識し、中期経営計画の策定の中で事業における社会課題や環境課題に対して、優先的に取り組む重要な経営課題「マテリアリティ」を設定しています。新たにKPIを定めたことで、目標に向かい推進してまいります。

マテリアリティ	KPI	目標
脱炭素社会への貢献	Scope1+2の温室効果ガス排出量の削減	2030年度46%削減
	ZEBの普及拡大	3年間で40件
DXを通じた事業環境の変化への対応	現場支援リモートチーム実施現場の増加	モニタリング
高品質な医療環境の実現	再生医療関連機器・システムの採用実数の増大	3年間で45件
研究・人材育成を通じたイノベーションと生産性向上	技術者一人当たりの完工高	モニタリング
健康・安全に配慮した働きがいのある職場環境	従業員満足度の向上	2.7以上（4点満点）
協力会社・サプライヤーとのパートナーシップ	マイスター・優良職長の定着率向上	モニタリング



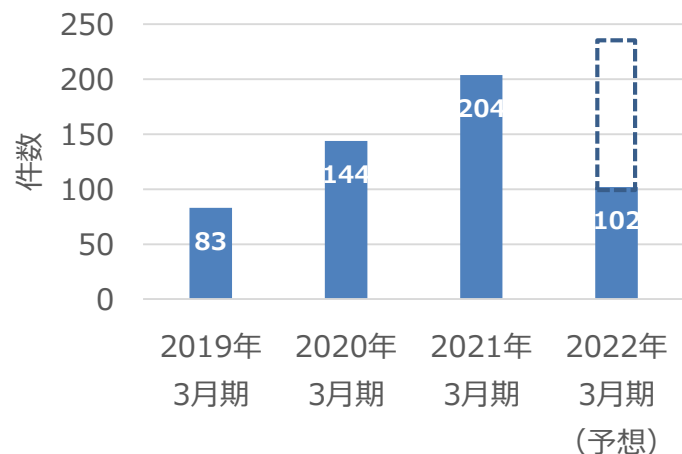
## ■ 2050年カーボンニュートラルに加速

- 第6次エネルギー基本計画
  - 再生可能エネルギーの主力電源化
  - 法規制強化による建築物の省エネ化促進、  
**ZEB普及促進策の強化**
- ESG投資を意識した、ZEBニーズ、省CO2改修ニーズの増加
- **ZEB認証数は年々増加**、大型案件も見られる

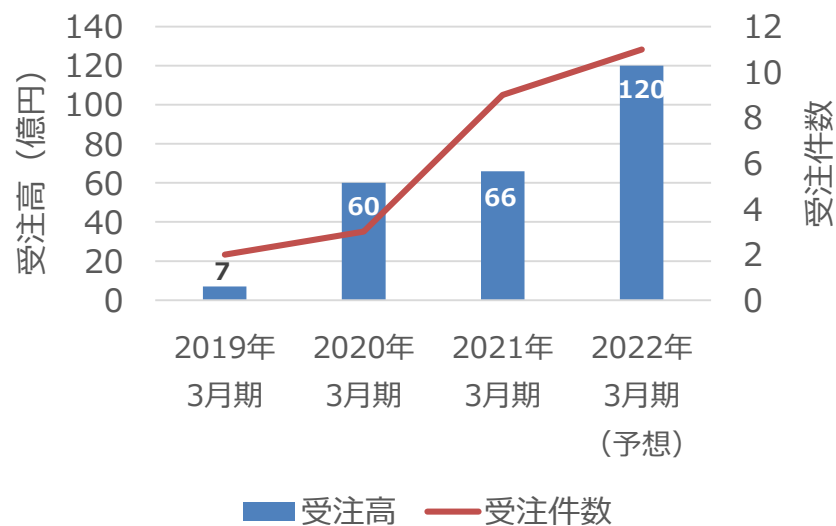
## ■ ZEB受注実績

エネフィスシリーズ（自社ビル）などダイダンのZEBへの取り組みが評価され、**ZEBに強いダイダン**のイメージが定着、その結果受注が市場の伸びを上回り年々増加

### ZEB認証件数の推移



### ZEBの受注推移



- エネフィス北海道（北海道支店）の竣工、  
北陸支店建替えに着手
  - 設計から運用まで、ZEBのライフサイクルにわたるノウハウの蓄積
  - ユーザーの健康、快適性を増進し、知的生産性の向上に貢献するウェルネスオフィスの開発  
CASBEE-スマートウェルネスオフィス Sランク取得
- ZEBプランニング業務の積極的受託による営業
  - 既設建物のZEB化改修提案・省CO2提案の推進
  - 太陽光発電設備などの再エネ設備対応力の強化
- ZEB運用を保障するリモビスの積極的な導入提案
  - リモビス導入サービスのスキーム構築と展開
  - ZEB化提案・省CO2提案と合わせた提案の実施



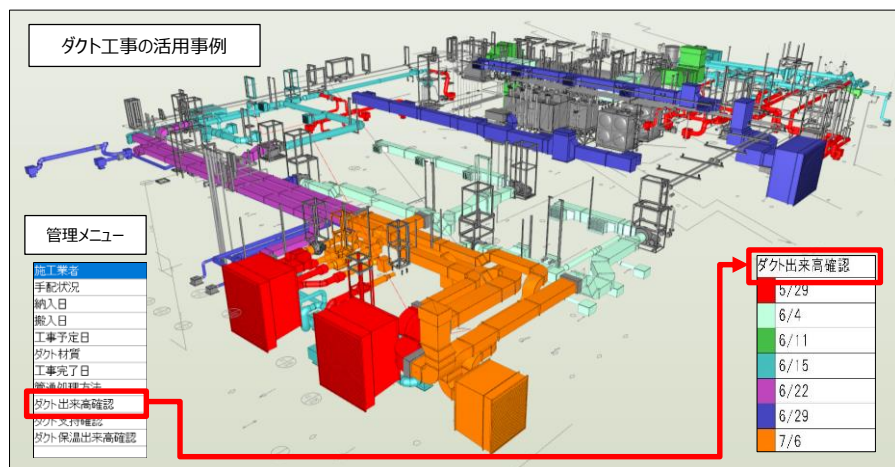
2021年6月竣工 エネフィス北海道



2022年5月竣工予定 北陸支店

## ■ BIM活用による施工スタイルの変革

3D形状の活用にとどまらず、ダイダンが取組むBIMは生産プロセスにおいてBIMモデル（情報）を活用し、**生産工程の省力化と施工管理の効率化**を図る



## BIM機能活用メニュー

- ・資機材の諸元データから自動拾い出し、発注を実施
- ・4D（時間軸情報）による工程・出来高等の施工管理
- ・5D（コスト軸情報）を加えた予算管理

## ■ 現場における作業効率化

### WEBカメラによる遠隔現場巡回

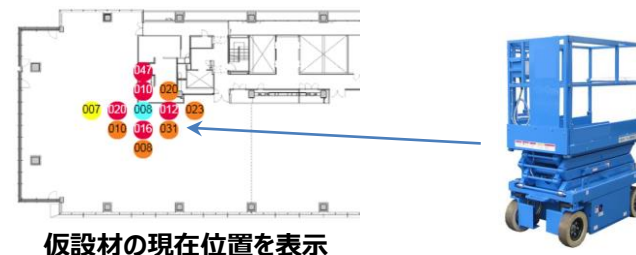
現場との距離を縮め、品質向上と安全リスク軽減  
現場リモートチームの活用：上半期302プロジェクト

（2020年度 217プロジェクト/年）



### Beacon（電波発信装置）による仮設材管理システムの活用

多大な労力を要していた管理業務を大幅に改善



【導入による効果】

高所作業車 50台運用

作業終了後の配置確認業務 ※残業時間帯の対応

社員2名（1~2時間） ➡ “0”

期待の高まる再生医療を身近な医療として届けられるよう、その産業化による普及に貢献してまいります。

## ■ 再生医療のコストダウンにつながる 新しいコンセプトのCPF※の戦略的な受注拡大

※CPF：再生医療用の細胞を加工するクリーンルーム



慶應義塾大学病院  
(血液 (キムリア) など)



クオリプス  
(心筋)



三重大学  
(がん (CAR-T))



発信力のあるユーザーの  
CPFの高評価と口コミ  
により引き合い拡大

がん、網膜など早期拡大が  
望める分野にアプローチ

2030年再生医療関連  
1兆円市場での  
CPFシェアを確立

## ■ 有力な周辺サービスの準備とアライアンス構築

がん、心筋、網膜 を対象した  
ベンチャー企業へ出資

- セラボ殿町のCPFを細胞製剤製造施設に改造
- 製造スタッフの確保、製造許可申請などの準備
- エアバリアCPF、オールインワンCPユニットの拡販



ベンチャー企業との  
強固な連携による  
事業領域拡大

再生医療向け  
細胞製剤製造受託サービスに参入

CPF・機器・サービスで  
2030年150億円を目指す



**<参考>**

**DATA FILE**

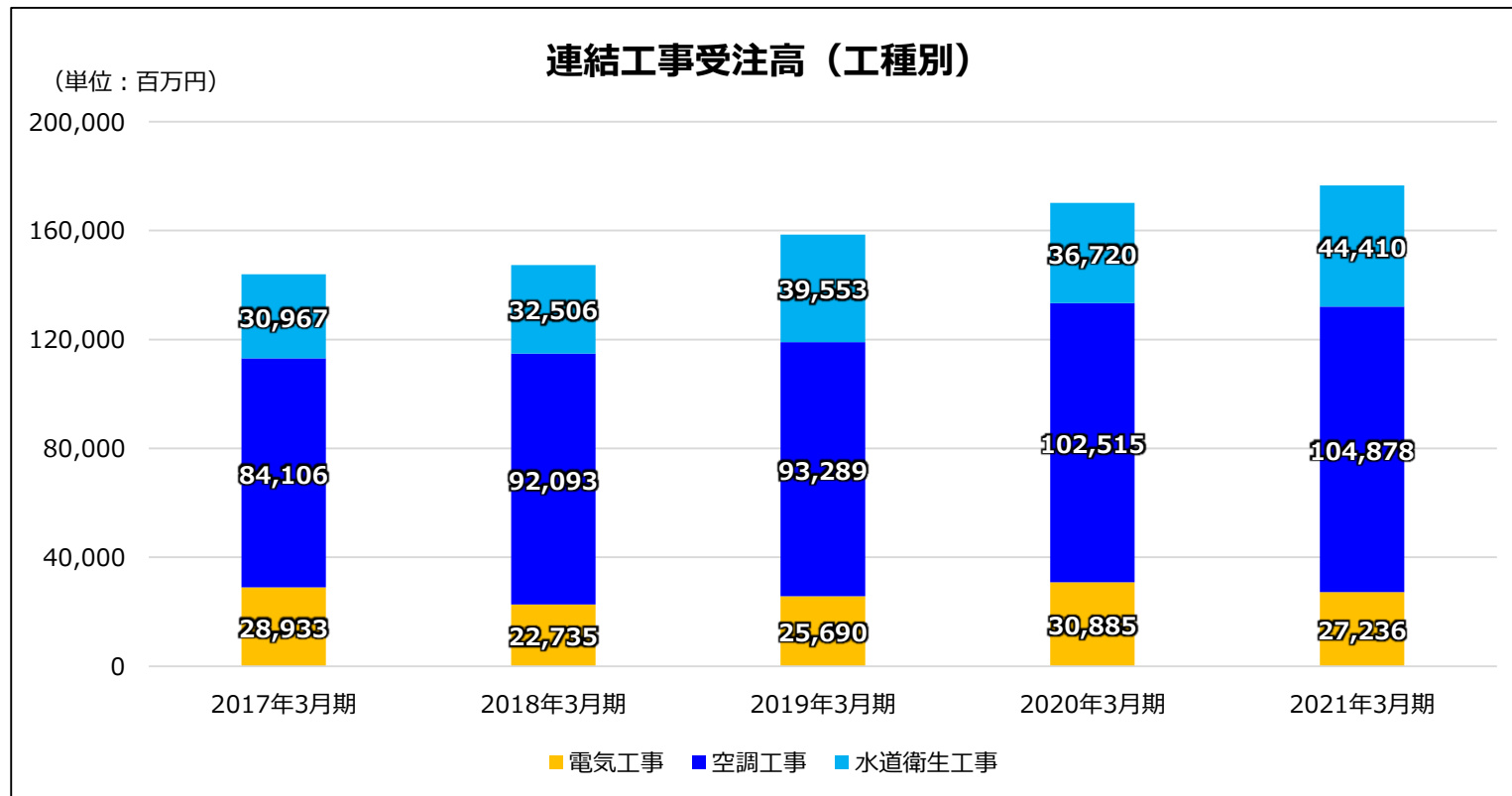
**〔通期・第2四半期〕**



# 連結受注工事高（工種別）〔通期〕

(単位：百万円)

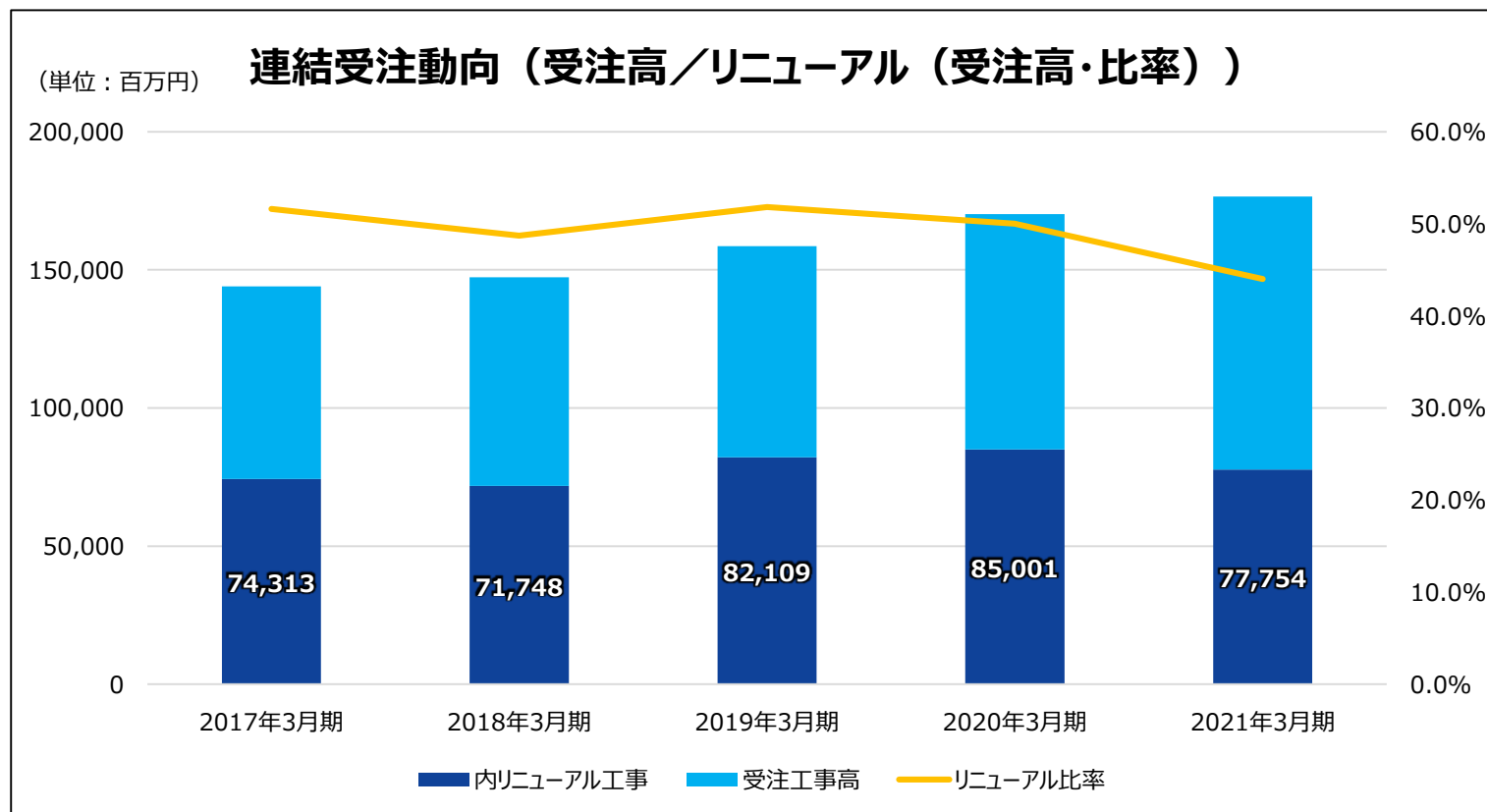
	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
電気工事	28,933	22,735	25,690	30,885	27,236
空調工事	84,106	92,093	93,289	102,515	104,878
水道衛生工事	30,967	32,506	39,553	36,720	44,410
合計	144,007	147,335	158,533	170,121	176,526



# 連結受注動向（受注高／リニューアル）〔通期〕

(単位：百万円)

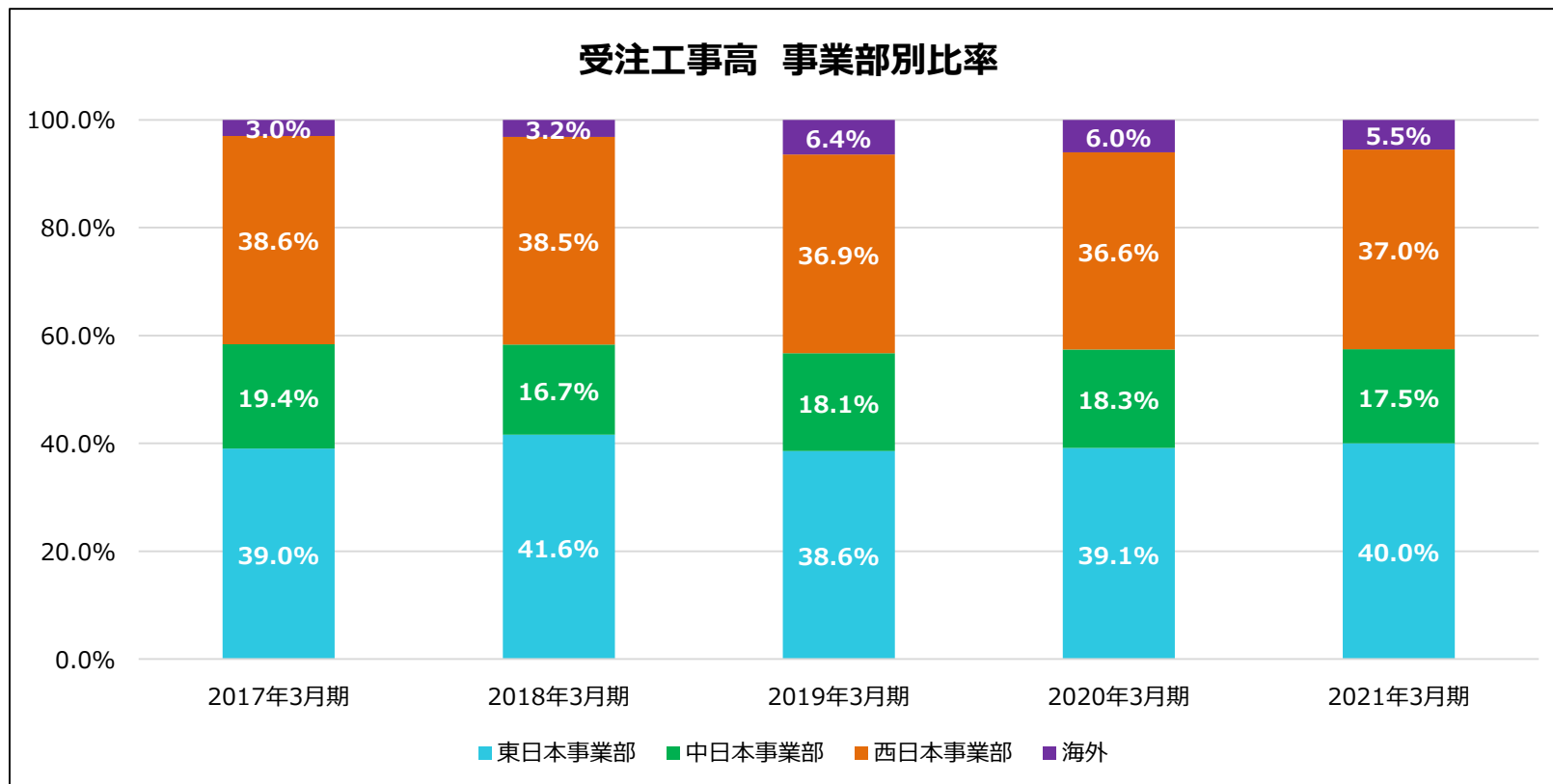
	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
受注工事高	144,007	147,335	158,533	170,121	176,526
リニューアル工事	74,313	71,748	82,109	85,001	77,754
リニューアル比率	51.6%	48.7%	51.8%	50.0%	44.0%





## 受注工事高比率

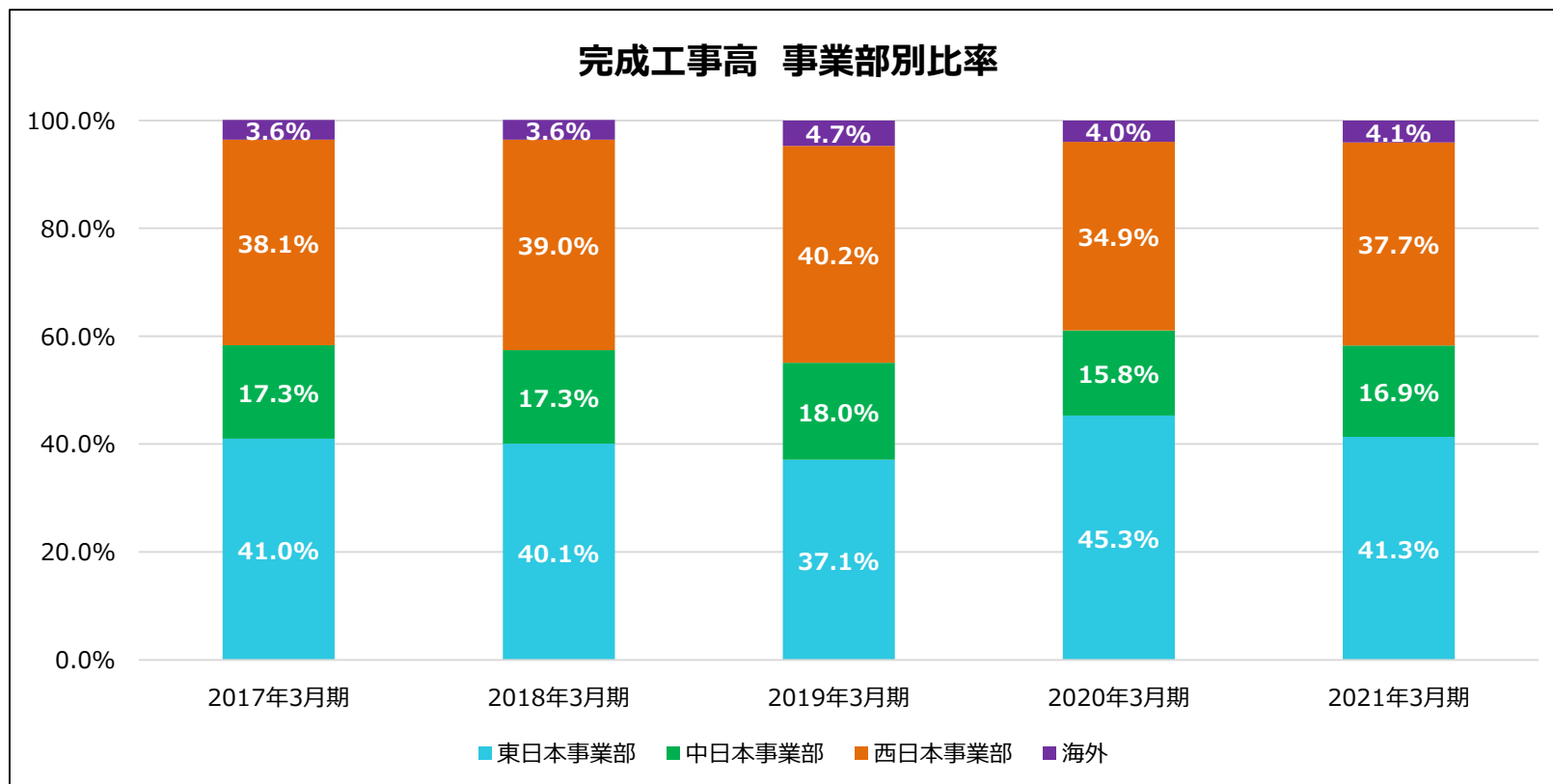
	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
東日本事業部	39.0%	41.6%	38.6%	39.1%	40.0%
中日本事業部	19.4%	16.7%	18.1%	18.3%	17.5%
西日本事業部	38.6%	38.5%	36.9%	36.6%	37.0%
海外	3.0%	3.2%	6.4%	6.0%	5.5%



# 連結事業部別完成工事高比率〔通期〕

## 完成工事高比率

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
東日本事業部	41.0%	40.1%	37.1%	45.3%	41.3%
中日本事業部	17.3%	17.3%	18.0%	15.8%	16.9%
西日本事業部	38.1%	39.0%	40.2%	34.9%	37.7%
海外	3.6%	3.6%	4.7%	4.0%	4.1%



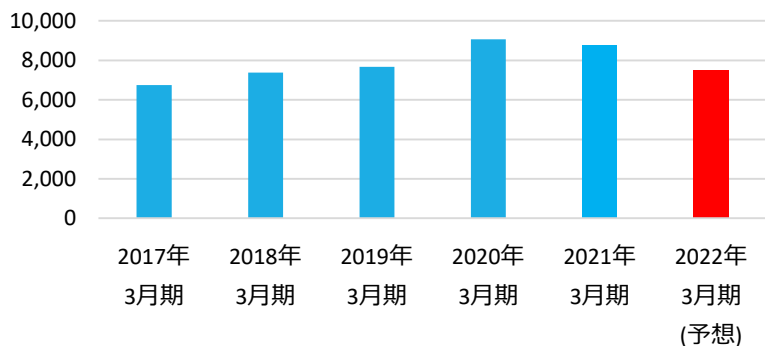
# 連結業績利益（営業／経常／当期）〔通期〕

(単位：百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期 (予想)
営業利益	6,750	7,385	7,661	9,063	8,754	7,500
経常利益	6,939	7,674	8,057	9,282	9,262	7,700
当期純利益	4,638	4,638	5,109	6,399	6,318	5,200

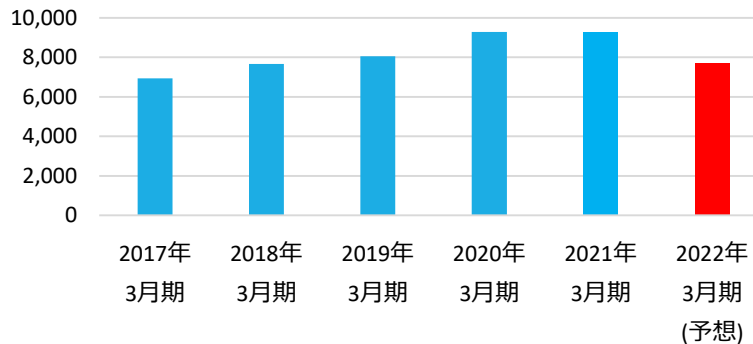
(単位：百万円)

## 営業利益



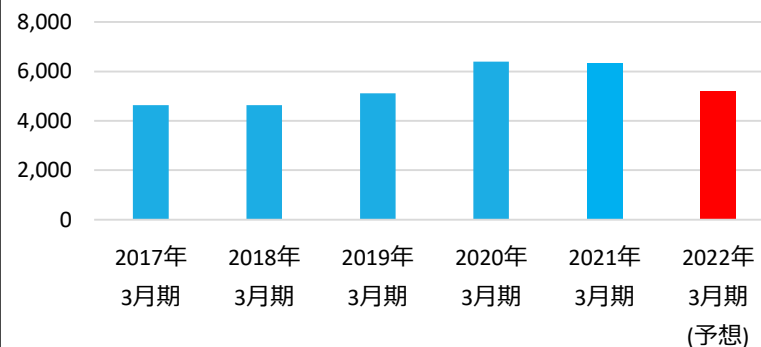
(単位：百万円)

## 経常利益



(単位：百万円)

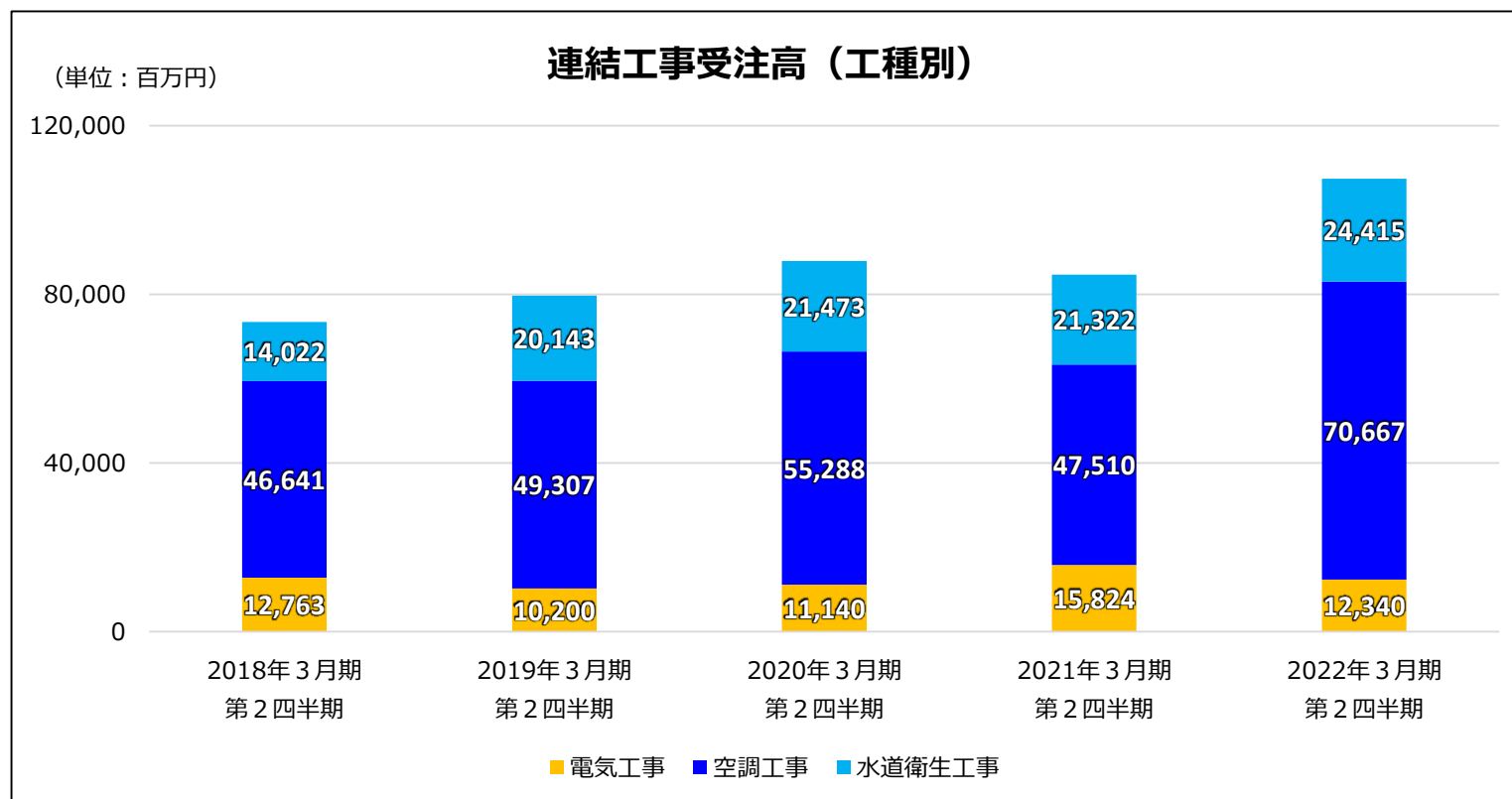
## 当期純利益



# 連結受注工事高（工種別）〔第2四半期〕

(単位：百万円)

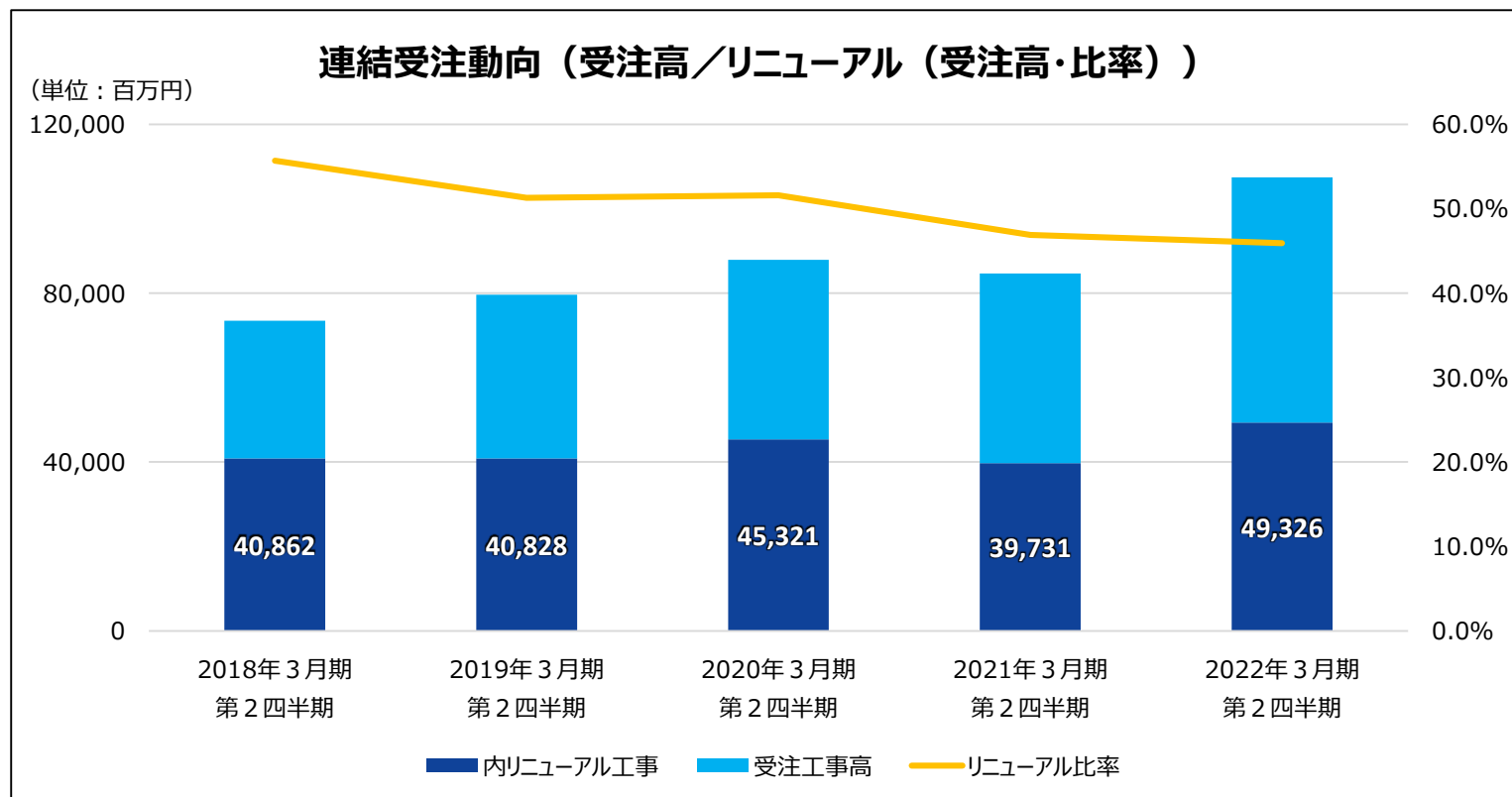
	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期
電気工事	12,763	10,200	11,140	15,824	12,340
空調工事	46,641	49,307	55,288	47,510	70,667
水道衛生工事	14,022	20,143	21,473	21,322	24,415
合計	73,427	79,650	87,902	84,656	107,423



# 連結受注動向（受注高／リニューアル）〔第2四半期〕

(単位：百万円)

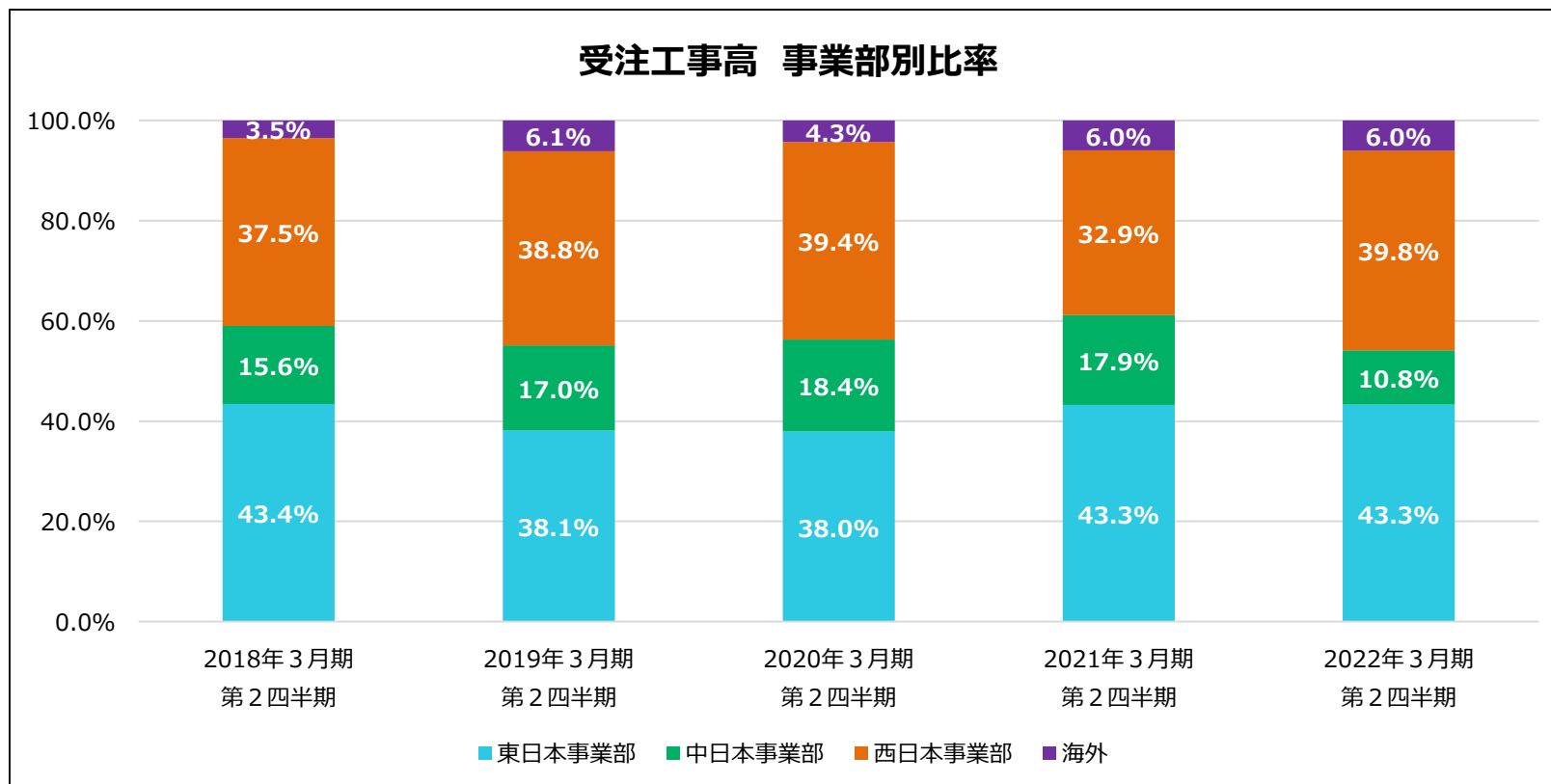
	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期
受注工事高	73,427	79,650	87,902	84,656	107,423
リニューアル工事	40,862	40,828	45,321	39,731	49,326
リニューアル比率	55.7%	51.3%	51.6%	46.9%	45.9%



# 連結事業部別受注工事高比率〔第2四半期〕

## 受注工事高比率

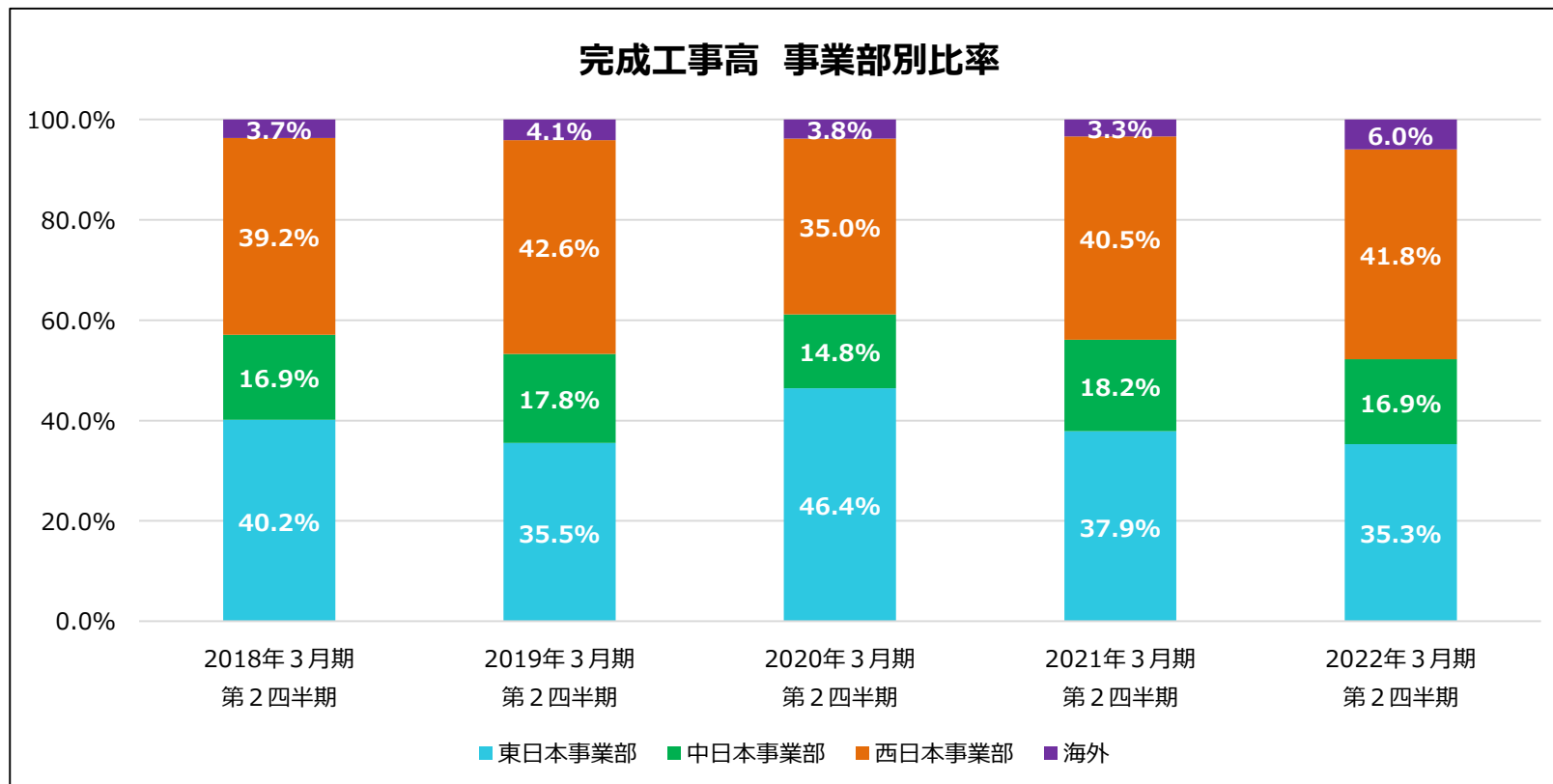
	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期
東日本事業部	43.4%	38.1%	38.0%	43.3%	43.3%
中日本事業部	15.6%	17.0%	18.4%	17.9%	10.8%
西日本事業部	37.5%	38.8%	39.4%	32.9%	39.8%
海外	3.5%	6.1%	4.3%	6.0%	6.0%



# 連結事業部別完成工事高比率〔第2四半期〕

## 完成工事高比率

	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期
東日本事業部	40.2%	35.5%	46.4%	37.9%	35.3%
中日本事業部	16.9%	17.8%	14.8%	18.2%	16.9%
西日本事業部	39.2%	42.6%	35.0%	40.5%	41.8%
海外	3.7%	4.1%	3.8%	3.3%	6.0%



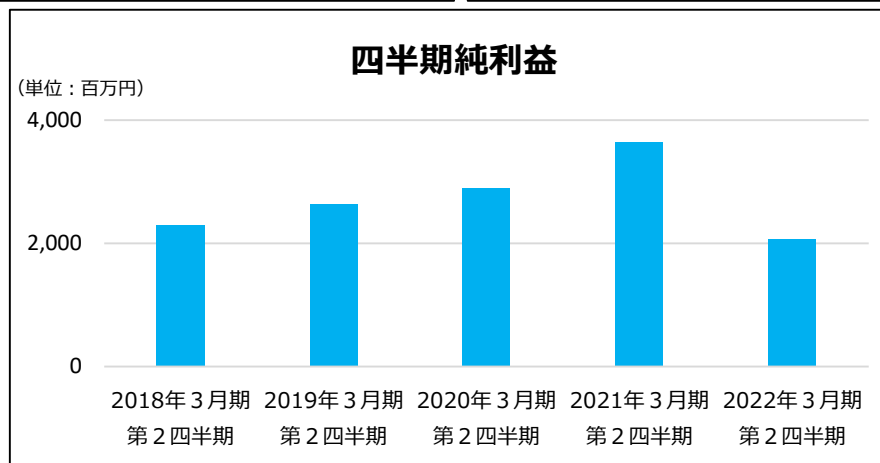
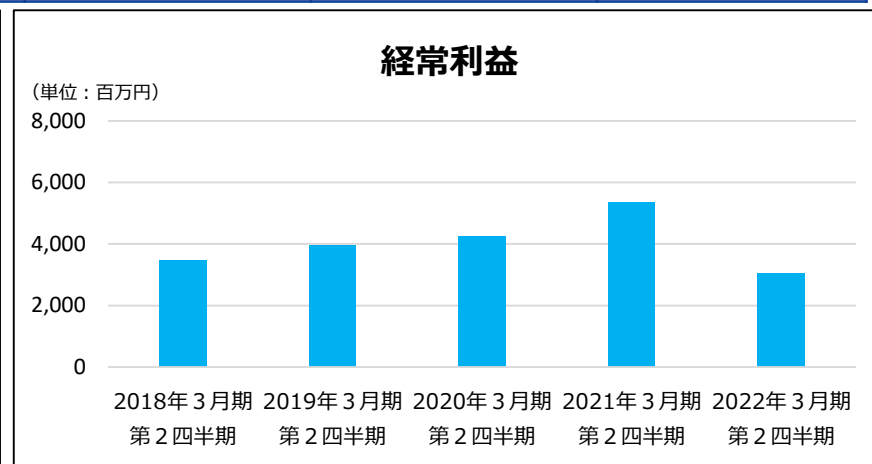
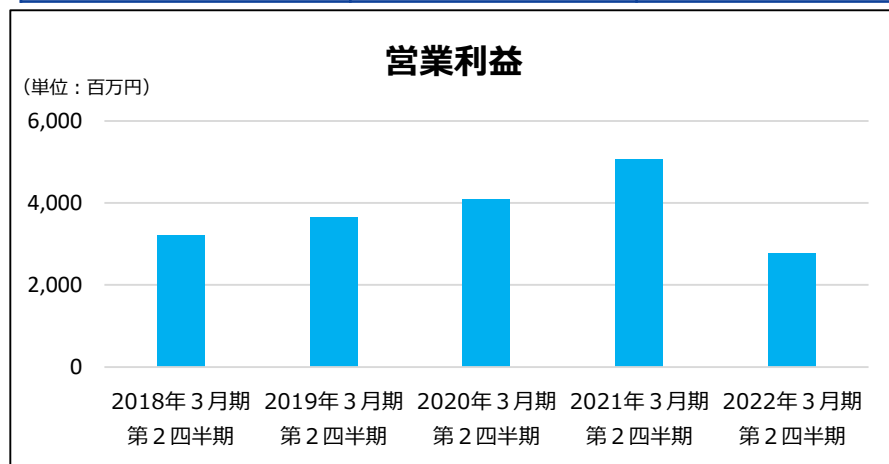


# 連結業績利益（営業／經常／四半期）〔第2四半期〕



(単位：百万円)

	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期
営業利益	3,201	3,649	4,091	5,070	2,768
經常利益	3,469	3,939	4,230	5,366	3,044
四半期純利益	2,297	2,645	2,897	3,654	2,077



## 免責事項

当社が開示する今後の計画、戦略などの将来の業績に関する見通しは、発表時点で合理的であると判断する前提に基づき作成しています。従って、様々な要因により、実際の業績が予想と異なる結果になる場合があります。

I Rに関する問合せ先

経営企画室 広報・IR担当：電話 03-3261-4568

〒102-8175 東京都千代田区富士見2-15-10